



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 75 号

-
- ・発行日 / 2008 年 5 月 20 日
 - ・事務局 / 〒422-8053
静岡県駿河区西中原 2 - 7 - 63 - 1001
草野計雄方
 - ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994
 - ・発行所 / クリスチャンパートナーズ
 - ・Tel / Fax 054-283-9317
 - ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp
 - ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/
-

「わたしたちの復活」

(新約聖書フィリピの信徒への手紙 3 章 10 節 ~ 11 節)

理事長 木ノ内 一雄

わたしたちはこの世では限りある命を生きています。しかし、わたしたちには復活の希望があります。使徒パウロは「わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです」と言っています。

世界の全ての民族は何らかの宗教を信じ、死後の世界を信じているといわれます。日本でも仏教や神道で教えるように、また、漠然とではあっても、新井満さんが作曲した「千の風になって」のように、人は死んでもその魂は生き続けると考えています。プラトンの「パイドン」では、ソクラテスはその世への靈魂の移住が順調に行きますようにと神々に祈り、この世を去りました。古代ギリシャ思想では人は肉と霊から成り、体は死んでも魂は生き続けると考えましたが、今日でもこの思想は世界中の多くの人の心をしっかりと捉えています。

このヘレニズムに対峙するのが、ユダヤ人の聖書に基づく考え方であるヘブライズムです。それは人を霊、肉に分けることなく一体と考えることにあります。キリスト教もまたこのヘブライズムを受け継ぎ、死は霊の死でもあり、肉は霊と一緒に復活すると考えます。死は罪の結果であり、死という断絶があって初めて、霊肉共に神の国の住民にふさわしく創り変えられるのです。主イエスがわたしたちの罪を十字架で贖ってくださ

ったがゆえに、この死からの復活はわたしたちの人生の目標となり、祈りとなったのです。

アジアだけでなく、わたしたちの援助がバンマリグ牧師を通してアフリカのガーナにまで広がっていくことは本当に大きな感謝です。世界中に住むクリスチャンが神と隣人を愛し、神の国の民としてふさわしく祈りあっていきたいと思えます。

(ガーナプロジェクトの紹介は次ページに)



ガーナプロジェクト紹介

理事 木ノ内和美

〔発端〕ガーナ北部出身の牧師、アモス バンマリグ師は、2004年4月から9ヶ月、栃木県那須にあるアジア学院に研修生として農業訓練を受けられました。その間、川越教会の教会員宅にホームステイをされた関係で、教会の礼拝に数回出席され、うち一回は講壇で説教奉仕に当たられました。教会では教会学校の子供たちとも交流され、ご家族や地域の写真を手にガーナの話をしてくださいました。教会員との交わりの席では、ご自身が帰国後なさろうとしているプロジェクトについて熱っぽく語ってくださったのが印象的でした。

同年12月に帰国され、プロジェクトを少しずつ推し進めておられますが、帰国前から川越教会ではこのプロジェクトを少しでも援助したいと願い、基金集めを始めましたが、一教会で出来る事には限界があるので、クリスチャンパートナーズを通して広く支援を呼びかけたいと思いました。

〔援助にいたるまでの経緯〕—昨年シドニーで開かれたパートナーズ・インターナショナル CEO 会議に草野理事と出席した折、アメリカのルイズ氏に直接ガーナ援助について相談し、アドバイスを求めました。その結果、パートナーズ インターナショナルとして援助を始めるためには、次の三点のステップを踏む必要があることが分かりました。すなわち(1)第三者が訪問し、活動を確認すること(2)一個人でなく団体の活動であり、理事会によって運営されていること(3)会計監査がいること。

帰国後、早速理事会に報告し、早期にアモス師の活動を見に行く必要が話し合われました。その結果、2006年秋、アメリカPIのアフリカ担当のレネ・ムボンゴ氏に、ガーナ方面に行かれる際、アモス師に会っていただくことになりました。その報告が届いたのは12月でしたが、ムボンゴ氏が現地にいらして大歓迎を受けたこと、50名ほど会員のいる教会に出席されたこと、理事の方々や訓練生と交流を持ったこと、プロジェクトの推進状況などに加えて、アモス師が大きなビジョンを持ち、行動力のある誠実な人物であることなど報告されていました。また、アモス師の住むウエルウエル村についても、イスラム教徒の居住地で95%がイスラム教信者でクリスチャンは1%しかいないが、イスラム教徒との協力関係が築かれているたくいまれな地域で、アモス師は福音宣教に使命感を持っていると言及されていました。この報告を経て、理事会で話し合った結果、クリスチャンパートナーズでガーナプロジェクトを支援することになりました。

〔農業支援運動〕 (Demonstration Farm Project Ministry)

アモス師が宣教活動の一環として進めている農業支援運動です。このプロジェクトはクリスチャンのNGOが、アモス師が居住する地区を中心に周囲6地区に住む経済援助を必要とする人々に、環境にやさしい有機栽培農業及び養豚指導、婦人への職業訓練、養護施設運営、清潔な水の確保と衛生面での指導、食糧援助をする活動です。2007年の活動報告から簡単に抜粋してみたいと思います。

- 1) 福音宣教：イスラム教からの65人もの改宗者が与えられ、4教会を新たに立ち上げることができました。教会を起すに当たり、アメリカPIのルネ氏のアドバイスがあったそうです。
- 2) チブームバンジム訓練センター建設：青少年の職業訓練を目指す施設で、アモス師の長年の夢です。—昨年より建設中ですが、資金が不足しており、建築資材が揃わず、工事中のままです。

3)養豚支援：昨年初旬は順調なスタートを切ったものの、秋から冬にかけてガーナ北部を襲った洪水により、田畑は言うまでもなく、人家、家畜に到るまで多大な被害が出、未だにその影響が出ているとのことです。今は種まきの時期に当たり、早急の援助が必要です。

4)婦人の職業訓練：グループ毎にバター作りやピーナッツの栽培指導など順調に進められています。

5)養護施設：2歳半から13歳までの45人の子供達の世話をしていますが、現在の賃貸のアパートが狭いため30人が施設に住み、15人は施設で食事などの面倒を見ながら、里親の家に寝泊りしています。子供達が住める広い施設が必要です。洪水のため、食料不足が続いています。

6)水の確保と衛生面での援助：昨年の洪水の影響で、新鮮な水の確保が困難な状況が続いています。被害を受けた人々の間には、不衛生な環境が続いているため病気が蔓延している状況にあります。アモス師はそのような地域に水の浄化剤や井戸の消毒などの支援をし、少しずつ改善を図っています。

きれいな水、清潔な住居、すぐに手に入る食べ物 恵まれた環境に住む私たちにとって、ガーナの人々の生活は余りにもかけ離れていて想像を絶することばかりです。アモス師の暮らす村には未だ電気も引かれていません。メールを送るにはバイクとバスを乗り継いで町まで行かなければなりません。そのような環境の中で、ひたすら主の御用のために奔走しておられるアモス師の活動を、一人でも多くの方々に手助けしていただきたいと思います。現在、私たちを含めて数名の支援者があって、心から感謝しております。もっと多くの方々にガーナプロジェクトについて考えていただきたいと心より願っております。

西カリマンタン ロバン村宣教報告 2007年11月

私はトーマス・ジュニアルディ(Thomas Juniardi)牧師、中国系です。家内のエステル(Esther)はジャワ島出身です。娘が一人います。私たちはロバン村で半年奉仕をしてきました。ロバン村では今まで何人もの牧師が入れ替わり立ち代り奉仕してきたため、子供たちのしつけに一貫性がなく、混乱していました。私はSACの支援プログラムが、この村の子供たちと家族に宣教のよい機会を与えてくれるものと確信しています。



ロバン村には現在百家族あまりが住んでいます。村民の大多数は仏教か儒教を信じています。しかし親は子供たちが教会の日曜学校に出席することは許しています。私たちは、福音の種を子供たちの心に撒くよい機会として、これを神に感謝しています。家族の宗教に影響されて、キリストから離れていく子供もいますが、多くは忠実にみ言葉に従っており、私たちは非常に喜んでいます。

教会の日曜学校には約80名の子供たちが出席しており、少年少女の集会には約20名が来ています。礼拝には20名ほどが来ます。

祈っていただきたいことは・・・



ロバン教会の日曜学校

1. ロバン村では仏教に人気があり強い影響力があります。教会と牧師に、村人に宣教できる英知を神がお与えくださいますように。
2. 今までのやり方が効果的に働いていないので、新しい教会組織が必要です。
3. 讃美歌などを投影できるオーバーヘッド・プロジェクター。
4. 私たちが礼拝をしているこの場所は、ここに住んでいるあるクリスチャンの所有で、

彼はこれを教会に売りたいと希望しています。ですから、私たちにはその費用が必要です。

Selamat siang (今日は)

マリアティ 私の里子



マリアティは、私にとって4人目の里子です。写真が送られてくるたびに、元気ではちきれそうな笑顔の彼女と対面しています。

両親、4人の兄たちと姉との8人家族の末っ子で、結婚している兄2人の家族とも皆一緒に暮らしているとしたら、さぞにぎやかなことでしょう。

家族の中でマリアティだけがクリスチャンのようです。どんな事がきっかけで教会学校へ来るようになったのでしょうか。彼女はロバン教会での礼拝や行事を楽しんでいるようです。

この2月で14歳になりましたから、やがてプログラムの一端を担う立場になるでしょう。聖書の好きな箇所は「アベルとカインの物語」、学科では数学、将来は教師になりたいマリアティ。

家族との関係をはぐくみ、将来の目標を見失わず成長するように、教会学校がこれからも彼女を支えてくださるよう、わたしも祈りの中に覚えていたいと思っています。

Trima kasih (ありがとう)

ランダス ハル

【理事会報告】第151回理事会は2008年3月31日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2008年1・2月会計報告承認。里親の異動で支援者のない里子3名増加。ガーナへの送金は受領され、活動報告到着。CEO会議の日本開催は現状では困難。リーフレット改訂版についての協議は次回にも続行。「通信」第75号の内容はロバン村報告、ガーナ支援紹介、インマヌエル中学校生徒の言葉(続)と里子紹介で、5月中旬発行予定。

第152回理事会は2008年6月2日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記>ガーナでの新しい歩みが始まりました。まだまだ不明なこともあり前途多難ですが、一步一步前進したいと願います。ミャンマーでのサイクロン被害は連日伝えられています。ヤンゴンの同労者と滞在中のポール・チャン師が救援に邁進している様子が、東南アジアPIを通して伝わってきます。さまざまな障害があっても、効果的な支援方法はまだ不明ですが、まず祈りによって支えましょう。インマヌエル中学校生徒の記事は次回に。新緑の季節、皆様にはお元気に過ごされますように。

鳥海百合子